

修士論文(要旨)

2015年1月

青年期における賞賛獲得欲求・拒否回避欲求・自己開示・対人不安の関係性について

指導 種市 康太郎 准教授

心理学研究科
臨床心理学専攻
213J4002
岩崎 佑未

Master's Thesis (Abstract)

January 2015

The Relationships among Praise-Seeking, Desire to Avoid Rejection, Self-Disclosure, and
Social Anxiety in Adolescence

Yumi Iwasaki

213J4002

Master's Program in Clinical Psychology

Graduate School of Psychology

J. F. Oberlin University

Thesis Supervisor: Kotaro Taneichi

目次

1. はじめに.....	1
2. 目的.....	1
3. 方法.....	1
4. 結果.....	2
5. 考察.....	2
引用文献.....	I

1. はじめに

対人不安とは、「現実の、想像上の対人場面において、他者からの評価に直面したり、もしくはそれを予測したりすることから生じる不安状態」と定義されている(有倉, 1995)。

堀井(2002)によれば、青年期における心理臨床の現場では対人恐怖的な訴えが多い。対人恐怖心性、すなわち対人不安意識は広く青年一般が自覚しやすい悩みでもある。さらに、堀井(2002)の研究によると、大学生の対人的な悩みとして「集団に溶け込めない」悩みが一番多く、青年期における対人関係は青年期以前とは異なるものになると考えられている。しかし、他者から否定されたくないという思いから他者に自己開示できず、他者を信頼できないまま対人不安意識を呈することも考えられる。また、他者に認められたいという思いから自己を開示し、他者を信頼でき、対人不安意識が弱まることが考えられる。臨床の場では、自己を開示することで信頼感を築く。よって、自己開示が対人不安との関連性を明らかにすることで、対人不安者への援助を考える一助となるであろう。

対人不安と直接的に関連する概念は、先行研究の結果(佐々木・菅原・丹野, 2001; 笹川・猪口, 2012; 佐々木・丹野, 2005; 三輪, 1999; 清水, 2009)から拒否回避欲求と自己隠蔽傾向と信頼感であると考えられる。また、対人不安と間接的に関連する概念は先行研究(Burhenne& Mirels, 1970; Tuckman, 1966; 榎本, 1997)より賞賛獲得欲求、拒否回避欲求、自己開示が考えられる。なお、拒否回避欲求は前述した通り、対人不安に直接関連する場合と、自己開示、信頼感を媒介して間接的に関連する場合があると考えられる。

2. 目的

本研究では対人不安と、他者からの評価欲求の方向性、自己開示、信頼感との関連性について検討することを目的とする。具体的には、以下の仮説を検証する。①「対人不安」と「拒否回避欲求」「自己隠蔽傾向」との間には正の相関、「信頼感」においては負の相関がみられる。②「拒否回避欲求」と「信頼感」の間には負の相関、「拒否回避欲求」と「自己隠蔽傾向」との間に正の相関がみられる。③「賞賛獲得欲求」と「自己開示傾向」との間には正の相関、「拒否回避欲求」と「自己開示傾向」との間には負の相関がみられる。④「自己開示傾向」と「信頼感」との間に正の相関がみられる。

3. 方法

首都圏の私立大学に在籍する大学生合計 508 名を対象として質問紙調査を行った。321 名分のアンケートを回収した(回収率 63.2%)。記入漏れや記入ミスがあった者 44 名を除外した結果、分析対象者は 277 名(男性 151 名、女性 126 名、平均年齢 19.7 歳、 $SD=1.09$)であり、有効回答率は 86.3%であった。

本研究で用いた尺度は「賞賛獲得欲求・拒否回避欲求尺度」(小島・太田・菅原, 2003)、「自己開示傾向尺度」(遠藤, 1989)、「日本語版自己隠蔽尺度」(河野, 2001)、「信頼感尺度」(天貝, 1995)、「他者からの否定的評価に対する社会的不安測定尺度短縮版(Fear of Negative Evaluation Scale ;短縮版 FNE)」(笹川・金井・村中・鈴木・嶋田・坂野, 2004)、フェイス項目であった。

本研究においては、IBM SPSS Statistics 22 を用いて、相関係数を算出し、対人不安と他の概念間の関連を検討した。また、尺度得点の性差を検討するために t 検定を行った。

4. 結果

相関分析を行った結果、全体において「対人不安」と「拒否回避欲求」「自己隠蔽傾向」「不信」との間に有意な正の相関がみられ、「自己開示傾向」との間に有意な負の相関がみられた。男性において「対人不安」と「拒否回避欲求」「不信」との間に有意な正の相関がみられ、女性においては全体と同様の結果となった。「拒否回避欲求」については、全体・男女ともに「自己隠蔽傾向」「不信」との間に有意な正の相関がみられた。「賞賛獲得欲求」については、全体において「自己開示傾向」「自分への信頼」「他人への信頼」との間にそれぞれ有意な正の相関がみられた。男性は全体の結果と同様であった。女性において「賞賛獲得欲求」と「自己開示傾向」「自分への信頼」「不信」との間に有意な正の相関がみられた。「自己開示傾向」については、全体・男女共に「自分への信頼感」「他人への信頼感」との間にそれぞれ有意な正の相関がみられ、「不信」との間に有意な負の相関がみられた。男女の各尺度得点差を検討するため t 検定を行った結果、「他人への信頼」は男性よりも女性の方が有意に高い得点を示していた。その他の因子については、男女間で有意差はみられなかった。

5. 考察

「対人不安」と直接的な関連を持っている概念として、男女共に「対人不安」と直接的な関連を持っている概念は「拒否回避欲求」と「不信」が挙げられる。特に「対人不安」との直接的な関連のある概念の「不信」は、その他の概念とも関連があった。したがって、対人不安を考えていく上で、「不信」は一つの大切な概念であると考えられる。

また、「対人不安」に性差は見られなかったものの、男性と女性それぞれ「対人不安」と直接的に関連がある概念と間接的に関連がある概念は異なる結果が示された。男性は「対人不安」と直接的に関連がある概念は「拒否回避欲求」「不信」だったが、女性はそれら二つに加えて「自己隠蔽傾向」「自己開示傾向」にも関連がみられた。また、女性は「不信」と「賞賛獲得欲求」との間に関連がみられたが、男性にはみられなかった。このように、対人不安には男女で異なる要素が関連していることから、対人不安に対するアプローチも異なることが考えられる。

引用文献

- Burhenne, D., & Mirels, H. L. (1970). Self-disclosure in self-descriptive essays. *Journal Of Consulting And Clinical Psychology*, 35(3), 409-413.
- 天貝由美子 (1995). 高校生の自我同一性に及ぼす信頼感の影響. *教育心理学研究*, 43(4), 364-371.
- 有倉巳幸 (1995). 対人不安. 小川和夫(監) 吉森護・浜名外喜男・市川淳章・高橋超・田中宏二・藤原武弘・深田博己・吉田寿雄(編) *社会心理学用語辞典* 北大路書房, 227.
- 榎本博明 (1997). 自己開示の心理学的研究 北大路書房.
- 遠藤公久 (1989). 開示状況における開示意图向と開示規範からのズレとについて. *教育心理学研究*, 37(1), 20-28.
- 堀井俊章 (2002). 青年期における対人不安意識の発達の变化(続報). *山形大學紀要 教育科学*, 13(1), 79-94.
- 河野和明 (2001). 自己隠蔽尺度 (Self-Concealment Scale)・刺激希求尺度・自覚的身体症状の関係. *実験社会心理学研究*, 40(2), 115-121.
- 小島弥生・太田恵子・菅原健介 (2003). 賞賛獲得欲求・拒否回避欲求尺度作成の試み. *性格心理学研究*, 11(2), 86-98.
- 三輪雅子・三浦正江・上里一郎 (1999). 大学生のシャイネスと信頼感, および精神的健康の関連性の検討. *ヒューマンサイエンスリサーチ*, 8, 121-137.
- 笹川智子・猪口浩伸 (2012). 賞賛獲得欲求と拒否回避欲求が対人不安に及ぼす影響. *目白大学心理学研究*, 8, 15-22.
- 笹川智子・金井嘉宏・村中泰子・鈴木伸一・嶋田洋徳・坂野雄二 (2004). 他者からの否定的評価に対する社会的不安測定尺度 (FNE) 短縮版作成の試み: 項目反応理論による検討. *行動療法研究*, 30(2), 87-98.
- 佐々木淳・菅原健介・丹野義彦 (2001). 対人不安における自己呈示欲求について——賞賛獲得欲求と拒否回避欲求との比較から. *性格心理学研究*, 9(2), 142-143.
- 佐々木淳・丹野義彦 (2005). 大学生における自我漏洩感を苦痛にする要因. *心理学研究*, 76(4), 397-402.
- 清水健司 (2009). 青年期における対人恐怖心性と自己関係づけの関連. *人文科学論集人間情報学科編*, 43, 65-75.
- Tuckman, B. W. (1966). Interpersonal probing and revealing and systems of integrative complexity. *Journal Of Personality And Social Psychology*, 3(6), 655-664.